

ほ み さと 穂見の里

北杜市立長坂中学校
学校だより



<文責>

校長 板山俊彦

【令和5年9月7日】

少しずつ変化する「白藤祭」への取り組み

1学期の終業式で、私は生徒に対して次のような話をしました。（概略）

「今の子どもたちの65%は、今ない職業に就く」

これは、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン氏（AI・人工知能の開発に携わった学者）が、2015年、今から8年前の論文で発表した内容です。8年前の子ども、まさに皆さんが該当します。ここにいる皆さんの半分以上が、今はまだ存在しない職業に就職するので、皆さんが社会の中心として生きる時代、それは今までの常識では考えられない、様々なテクノロジーによって日々生活が変化する、ある意味「見通しの立たない時代」とも言えます。

では、そのような時代の主人公となる皆さんに求められる力とは何でしょうか。様々な意見がありますが、多くの専門家が共通して言っていることが2つあります。

まず、一つ目は「自ら進んで行動する力」です。誰かからの指示を待ち行動するのではなく、自分自身で必死に考え行動し問題を解決する力です。

もう一つは「自分以外の人と協働（連携）する力」です。一人の人間の発想や行動には限界があります。より多くの人とつながり、新しいアイデアを生み出したり広げたりしていく姿勢や態度が求められます。

日本の学校教育は、学習指導要領（文部科学省が定める教育課程の基準）に則り進められています。学習指導要領は10年を目安に改訂されています。改訂にあたっては10年先の社会において必要とされる資質・能力を見据えています。現在の学習指導要領の特徴の一つに「何を学んだか」（知識量）よりも「どのように学んだか」（学習過程）を重視する点が挙げられます。まさに先に挙げた2つの力を育むために、学校教育そのものが変革の時期を迎えています。

今回で第58回を迎える「白藤祭」への取り組みも、それぞれの時代の要請を受けて、少しずつ変化しています。教師主導による効率や見栄え・完成度が求められる「白藤祭」から、今は、生徒の意見を反映させながら試行錯誤の上で実施する「白藤祭」へと変化しています。例えば、夏休みの課題として全員が提出していた「シンボルマーク」や「ポスター」への取組は希望する生徒のみとなりました。生徒と語り合いながらの活動時間を確保するために、掲示物や映像を簡素化しました。また、体育部門の種目選定には、生徒の意見を反映させました。

保護者並びに地域の方々より「アフターコロナとなり、以前のような『白藤祭』を期待します。」や「『白藤祭』への取り組み（練習）に対して、学校の関わり方が強すぎるのではないか。」など様々なご意見をうかがいます。白藤祭に期待する姿も、人それぞれ異なったり、少しずつ変化したりしているのではないのでしょうか。

新型コロナウイルスを始めとする各種感染症への予防対策、猛暑の中での熱中症防止対策など、様々な困難を乗り越えて迎える「白藤祭」です。生徒の活動する姿を通して「自ら進んで行動する力」や「自分以外の人と協働（連携）する力」が、本校生徒に育まれていることを実感していただければ幸いです。

「長坂中学校太鼓隊」の活動について

「白藤祭」でご覧いただく、長坂中学校の太鼓隊について紹介します。

<経過（学校沿革史を参考に作成）>

平成2年10月 9日 故天野^{あまの}宣^{せん}氏より、長坂中学校和太鼓による組曲「校風」の楽譜受領
12月17日 天野氏 他5名より太鼓の指導を受ける（初めての指導）

これ以降2月25日の発表会までに合計12回の指導を受ける

平成3年 2月25日 和太鼓による組曲「校風」発表会を実施（初披露）

8月27日 天野氏太鼓指導（2年生を対象）

9月15日 学園祭（白藤祭）で初めて和太鼓の演奏を披露

平成5年 8月 1日 旧長坂町「国蝶オオムラサキ祭」において地域の方々に和太鼓演奏を初披露
以降令和元年の「北杜市ふるさと祭り」まで26年間参加し演奏を披露

10月17日 旧長坂町の頃から交流のある新宿区で行われる「新宿フェスタ93」において和太鼓演奏を披露

以降令和元年の「大新宿区まつり」まで参加し演奏を披露

令和2年以降 コロナ禍のため学園祭（白藤祭）での演奏を除き校外での活動を中止（自粛）

長坂中学校生徒による和太鼓演奏は、長坂中学校の伝統の一つとなっています。

コロナ禍以前の本校の太鼓隊は、学園祭である「白藤祭」を皮切りに、「北杜ふるさと祭り（旧長坂町の頃は『国蝶オオムラサキ祭』）」や友好交流関係にある新宿区で開催されている「新宿祭り」など、様々な機会において演奏を披露していました。活躍の範囲は学校の中だけにはとどまらず地域や県外にまで広がるなど、まさに長坂中学校の花形的存在となっていました。

長坂中学校で太鼓隊が編成されたきっかけは、昭和61年に開催された「かいじ国体」にまでさかのぼります。全国各地から当時の長坂町（レスリング会場）を訪れる選手を始め関係者をもてなすために、長坂町では「^{やっがね}ハヶ嶺太鼓」が編成されました。これをきっかけに、地域の和太鼓に対する興味関心が一気に高まりました。和太鼓の演奏技術の習得には多くの時間を必要とします。また、次世代の人材育成も不可欠です。そこで、当時の長坂町を始めとする行政、教育委員会、ハヶ嶺太鼓関係者、それに学校が連携して長坂中学校に太鼓隊を発足させました。太鼓の購入や練習場所の確保、また練習場所への移動など、発足当時は様々な困難に直面したと、当時の関係者は語っています。

本年度（令和5年度）の長坂中学校太鼓隊は、総勢33人の構成となっています。例年、前年度の2月に1年生を対象としたオーディションを行います。そこで選ばれた15名前後の生徒が、既に選ばれている2年生と共に、太鼓隊のメンバーとして活動を開始します。

太鼓隊を取り巻く環境は、以前とは比べて大きく変わっています。例えば、生徒数の減少や新しい学習指導要領実施に伴う教育課程（学習の指導計画）の変更。部活動に関連する各種大会の開催時期の変更等も挙げられます。そして、そこに追い打ちをかけるかのように「コロナ禍」。社会全体の変化にともない、以前と同様の活動を望むことは困難な状況です。そのような状況であっても太鼓隊の生徒は、本校の伝統を引く継ぐために、日々練習に励んでいます。白藤祭当日は、太鼓隊の雄姿をぜひご覧ください。

本校ではホームページを通して、学校の様子を随時お伝えしています。

<http://hokutoed.main.jp/nagasakajhs/>

